あおい通信 第152号

第152号 平成30年1月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話 03－3978－0919

新年明けましておめでとうございます

運営法人社長 片山 章

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今年は戌年（いぬどし）です。正しくは「戊戌」（つちのえいぬ）の年。

戊（つちのえ）は、土の兄（え）、陰陽五行説の陽です。そして戌（いぬ）は、これも同様に陽の土であり、「戊戌」は同じ「陽の土」同志の組み合わせの陽陽となります。五行では、この関係を「比和」と呼び、相互を最大に強め合い、喩えプラスとマイナスであっても打ち消し合うことはなく、どちらかに「転んで」持てる力を最大に発揮するとされています。

そして、文字としての「戊」は葉が茂る姿を表し、その意味するところは溢れ出す生命力です。方や「戌」の文字は、枯れた木を表し、終焉・滅亡・終わりを意味します。似たような漢字が並んでいても、実は正反対の意味を持っているので、本年の動向は不安定な境界線上にあり、バランスが崩れればどちらにも「転ぶ」ことになります。

昨年は、火が金を溶かす「相克の年」らしく数々の事件が起こりましたが、今年の「比和」はどの様に展開するでしょうか？そこで、真逆の強烈な個性が対峙している現象を探してみると…

短期的には、米国のトランプ大統領と北朝鮮のキム総書記となります。

個人個人としては両者に共通して狂気を感じますが、国家として見れば「自由の象徴」と「独裁国家」という正反対の存在であり、核弾頭ミサイル問題の今後が大変気になるところです。《私見としては、核戦争に発展することはないと思っていますが…》

同様に、「独裁政権」と「一般民衆」の対立という構図があり、これも「比和」であると考えます。南スーダン、ベネズエラ、イランの混乱などです。

中長期的には中近東問題が来ます。聖地エルサレムの帰属が何処かという極地的なことではなく、ユダヤとアラブという民族・宗教の対立として捉えた時、一神教の中の旧勢力「ユダヤ教」と新勢力「イスラム教」という新旧の対峙がそこに出現します。教義の上で妥協しないユダヤとイスラムの歴史において、欧米と共に世界を裏で動かしてきたユダヤ民族の優位性が、近年の資本主義の限界により揺れ始め、イスラム社会の反撃に直面していると捉えます。

その結果、バタフライ効果的に派生しているのが、ムスリムのテロや、アラブ諸国の難民問題、更にはEU崩壊の動きなどであると考えます。

最後に国内では、前出の北朝鮮核ミサイル問題を契機として軍事力強化に動きだし、もともと憲法改正を目指していた安倍政権の存在です。

太平洋戦争後、軍事国家であることを放棄した我国のあり方を「米国に押し付けられた旧体制」であると批判し、いわゆる安倍思想こそが「今後日本の新しい姿である」とする「新旧」対立ロジックが比和となります。

これらが今後どちらに「転がる」のか？まさに分岐点に差し掛かっていると思います。

東西南北

謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

皆様におかれましては幸多き一年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は大変お世話になりました。今年も何卒よろしくお願いします。

平成三十年 元旦

昨年中はあおい通信を、多くの方にご愛読戴き、誠にありがとうございました。我々編集委員も嬉しく感謝申し上げます。皆様方の「様々で貴重な昔の体験談、エピソード、現在の心身状況」等々の寄稿を元に一年間編集部も一丸となって努力をしてまいりました。本年も皆様の寄稿が頼りであります。本年も昨年に増して興味のある、素敵な話題や、時節の感想等、お寄せくださる事を期待し、重ねてお願い申し上ます。

一月、二月、寒さが最も厳しい月間であります。齢を重ねるごとに、病に対する抵抗力も衰えがちになります。葵でしっかり運動して、体力、筋力の増強に努めどんな病にも屈しない態勢を調えましょう。

本年もよろしくお願い申し上げます。（編集長）

談話室

額田美保

明けましておめでとう御座います。本年もどうぞ宜しくお願い申しあげます。

新春の光を、風を、身に受けて、いよいよ新しい年の出発です。

大切な一年を又戴けて、生きる歓びをかみしめ乍ら先ず祈ること、それは誰もが同じです。此の年の幸せ、自分も家族も友人そして知人、いえ凡ての人々、大きく言えば世界の幸せを祈らずには居られません。テレビを見れば、何時、何が起きても当たり前のような情勢に思えるのです。今すぐにでもそれは起きるかも解りません。

子供時代を戦争の怖さの中で育った者達にとって、平和の有難さ以上のものは有りません。今年こそ、もう争いごとの無い平和な世界を目指そうでは有りませんか。つい戯言（たわごと）のように大袈裟なお話に成りましたが、ここで老人の新しい年に戻ります。

先ず自分の事は出来る限り自分でする。人を頼らない、それを今年のモットーとする事、無理はしないがでも出来るなら自分でやれる間はゆっくりあせらずやって見る事です。そして人の為に何かして上げられる事が有ったら、小さい事でも喜んで貰える事には勇気を出してやってあげるのです。思った事の一言をかけて上げるだけでも、老人には支えになると思います。

さア、今年も明るく朗らかに。

葵友の会 広報コーナー

奉賀新年 初春の

お慶び申し上げます

今年度も新入会員の募集を致します。葵デイサービスを利用されている方はどなたでも入れます。年一回の一泊の旅行や日帰りグルメ旅行をしています。その他カラオケ、麻雀等もしています。カラオケは毎月一回第三金曜日に行っています。麻雀は二か月に一回程度ですが中々人数が集まらず最近は出来ていません。少しでも関心のある方は是非とも参加を勧めます。わからない事がありましたら職員又は友の会役員にお聞きください。

会長 小林辰夫

12月の報告

15日（金）カラオケ

12名の参加。

1月の予定

19日（金）カラオケ

19日（金）初詣バス旅行

（事務局）

◆編集委員会より
「あおい通信」は皆様からの原稿を募集しています。
係員・飯島

葵は「心と身体のリハビリ」で元気な「笑顔」を作ります奉賀新年

利用者さんの紹介コーナー

菅原　峯雄（火）

宮城の栗原市で生まれ、幼少期を過ごし、同じ大崎市で中学、高校を終え、大学と社会人の生活を東京で送りました。会社勤務を卒業したのは七三歳。半世紀以上も働けたのは周囲の方々のサポートがあったおかげ、とボランティアの日本語教師に応募。武蔵大学の日本語科で一年間学び直し、十年間のお勤めを果たしました。

佐藤　信子（日）

自由に自分の時間を使えるようになり、葵にきて体操なども楽しくやっております。これからも皆さんのお仲間として、よろしくお願いします。

若年層の「××ばなれ」

「若者のクルマ離れ」

という言葉が広まって久しい。改めてその実態を知る。三十才未満の男性単身所帯で自動車の普及率をみると、２００４年の６１％が、その１０年後には４６％にまで下がった。

最近の若者はモノへの執着心が薄いと見る向きもある。だが白書は、若者の消費行動の背景には将来への不安がある、ともいう。物心ついてからずっと低成長。長く勤めたら賃金が上がるという期待が持てない。「買わない」のではなく「買えない」。そんな側面もあるのではないか。可処分所得が上昇すれば、自然と若年層にクルマ熱は戻ってくる。

「若者の結婚離れ」

少子化対策の一環として社会問題ともなる。一人暮らしでもなに不自由なく、生活できる、今時は結婚して自由を失くして苦労をするかもしれない生活になる様な未来は選択しない。自分の将来、老後の生活に想いを馳せ心配することなど考えもしないのか。老婆心的心配は尽きない。

ヨッチャン

ぶらりひとり旅

増田義雄

新年あけましておめでとうございます。

本年の干支は戊戌（つちのえいぬ）で陽にあたり今年こそ素晴らしい年であります様祈ります。

昨年は予想通りの自然環境や社会を脅かす事が沢山あり最悪でした。地震や台風、ハリケーンや山火事も多く、大雨や洪水、地すべり等、水資源、農漁業やインフラに大きな被害をもたらしました。

今年は明るい話題から、人気者パンダのシャンシヤンの成長ぶり、羽生棋聖「永世七段」の達成、最年少プロ棋士藤井四段の最多二十九連勝、秋篠宮眞子さまのご結婚等おめでとうございます。

私は昨年「ぶらりひとり旅」を企画、陽気の良い四月下旬から十月にかけ、二十回近く実行しました。名所旧蹟や美術館巡りや再開発著しい都心や超高層ビル街等、行きたかった所を一人で気の済むまゝ、足の向くまゝ、マイペースで新しい刺激を求めて歩きました。外出すれば一日少なくても一万歩、多い日は一万五千歩となり脚力の自信にもなり、心地良い疲れは良い睡眠にも連がり、今後も出来るだけ続けたいと思って居ます。

日本の霊場、信仰の地

絹田治夫

前回の続きです。日本の山岳信仰の歴史です。

古来、山は神霊の居所として畏敬され、山頂や山麓に祭場・神社等が作られた。

農耕民にとっては水源、狩猟民にとっては狩猟の場として豊穣を祈る対象でもあった。

奈良時代には仏教や道教の影響から入山修行する者が増え、山伏、修験などとよばれた。修験道の誕生である。

江戸時代には多くの庶民も講を結んで山に登るようになった。

明治期には神仏分離と修験道廃止が行われたが、太平洋戦争後は多くの修験教団が独立し、各地の山岳霊場にたくさんの登拝者が訪れる。

現在では修行者以外の人も山の神社に行きます。

金峯山寺の大峯奥駆の（おおみねおくがけ）修行。

金峯山寺蔵王堂から熊野本宮までを駆け、祈り、心身を鍛える。

金峯山寺蔵王堂

富士山本宮浅間大社

富士山を神体として祀り、富士に奥宮がある。

富士山が大噴火をしたときに山霊を鎮めるために創祀、古来、日本各地の浅間神社の総本宮として富士山信仰の中心。

富士山本宮浅間大社

あおい・歌壇・俳句・短歌・川柳

雪の下　自己の生き行く　道を知り
砂利の隙間に　葡萄の枝のばす
湯沸しの　笛の叫びを　耳にして
アウシュビッツの　悲鳴と聞けり
午前四時　バイクの音は　朝刊だ
インターネットが　購読者を奪う

森下千壽子

夕方が　いちばんきれい　冬の空
カーテンの　動いているは　すきま風

相田美代子

古今抄（長期利用者様の紹介）

入江　昭三（H17年6月から通所）

好きな山歩きでスリップし、右大腿骨頸部骨折の怪我。病院のリハビリ科で訓練するも、これ以上良くならないぞと言われたのが通所のきっかけ。

回復をめざして早や十三年。その間、社長のパソコン教室、事務長の「エンピツで奥の細道」山口理学療法士の転倒予防教室、ミステリーツアー等が思い出される。特に介護・医療情報は参考になった。今後も楽しい行事の企画を期待したい。ありがとう。

山田　芳子（H17年12月から通所）

いつも一人で家に居ますが、葵に来ると沢山の人がいるので、皆さんに会いたくて頑張って来ています。マシンも豊富で気に入っています。

自分一人でいるのではなく、皆さんと一緒にいる楽しさを知りました。社長の考えに共感できることも多く、素晴らしいと思います。

斎藤　重美（H18年5月から通所）

初めて葵にきた時、若い時に覚えた麻雀ができることを知り嬉しかったが、私の麻雀をけなされたので、悔しくて麻雀教室に通ったりして、一生懸命勉強して現在に至りました。最初来たころは、病気の後で、ボーっとしていましたけど、葵にきたおかげで今は元気になりました。

穂刈　操（H18年1月から通所）

葵さんに通所して十年になります。様々な行事があり勉強になります。

特に課外授業で上野の精養軒で食事し、国立西洋美術館で「カラヴァッジョ展」を鑑賞したことはよい思い出です。今後も諸行事に無理せず積極的に参加したいと思います。